台風シーズンを目前にひかえ、 風水害等備計画の一環として、足 いては千住新橋区営グランドで等祭署 ・では千住新橋区営グランドで海 ・地を仮設して避難誘導訓練を行つ ・地を仮設して避難誘導訓練を行つ

〇名を招き、千住・西新井両で、乙の日は、区内町会自治会、

写 真は避難誘導 (八月六日)

て、台風来襲前の病人子供婦女子で、台風来襲前の病人子供婦女子を避難させる第一次計画避難、危險な事態にそなえての第二次緊急避難訓練、屋上にとりのこされた避難訓練、屋上にとりのこされた。 て、台風来襲前の病人子供帰女子先ず、両警察署長の指揮によつ発難誘導訓練を参観させた。 察署員の行う避難命令伝達訓練 昭和35年8月25日



## 这政のお知らせ

第116号

(特集・台風に備えて)

対野川)台属の際、岩淵水門の最 が標はA・P・併四・二○メートルを示していました。(荒川護岸 の築造高はA・P・併四・○○メートルである。)近年地盤沈下の 増加しつゝあることを考えます と、荒川の護岸の高さは全面的に と、荒川の護岸の高さは全面的に 定別、(隅田川)は岩淵水門(北 区)で洪水量を調整しますので、 上流からくる洪水の危険度は極め て少いのですが、異常高潮による 危険が非常にあります。この高潮 10かし昭和三十三 を防ぐための護岸は現在、 年応急に作りま 流約三〇〇メ の際、岩淵水門の量三十三年二十二号へは完了しています。 トル 余が 作 豊島橋

三、 綾瀬川

約三○センチメートル低いでの注 設護岸が、付近の護岸の高さより 設護岸が、付近の護岸の高さより での高さより 意を要

この放水路には、特に危険と認められる個所はありませんが、従 来から柳原町あたりの土手に弱い 所があるようにいわれていますの で、水防上警戒を要します。な お、この放水路で目下、建設省が 堤防のかさ上工事と川のなかの護 岸工事を遂次行つていますが、完 には数力年を要するものと

係があります。

荒川放水路(新荒川)

思われます。

れに備える水防態勢が必要です。とは、上流にある熊谷及び古谷地とは、上流にある熊谷及び古谷地とは、上流にある熊谷及び古谷地とが、上流にある熊谷及び古谷地の増水状況を的確に把握し、これに備える水防態等が必要です。 が必要です。

み、また利根川と地勢上密接な関綾瀬川は、江戸川の 流 れを く

四 中川

リン台風で失復したいる部分は、特に危険と認められる箇所はありませたが、河の流れが足立区寄りになっている関係と、二十二年キャスリン台風で失復した。

的に弱体カ所があるようにいわれ ていますが、下流に位する当区と

上昇して、危機に瀕し、また数カ上昇して、危機に瀕し、また数カがらつてきたような実状ですからとなければならない状態にある厳しなければならない状態にあるといえましよう。したがつて昨年度から常盤線上流の左岸の一部にかさ上工事が進められています。ことの必要が痛感されます。

また今年も台風がやつてきています。十一号十二号と相次いで日本を襲つてきています。この「区政のお知らせ」一一五号(七月号)でも台風に備えていろいることは不可能です。 この「区政のお知らせ」一一五号(七月号)でも台風に備えていろいることは不可能です。

の現況などをお知らせし、

せし、特に避難にあたつての御注意を特集しましたしたが、なお一層の御協力をお願いするために、川らせ」一一五号(七月号)でも台風に備えていろいらせ」一一五号(七月号)でも台風に備えていろい

2

れ

が足立区を流れる川だ

の現況をよく

、知つて

おこう

経過した今日、 狩野川台風以来すでに二カ年を

以視等が設置されていますの、 なお、堤防沿いに多くのようなお、堤防沿いに多くのような。

一」・ミナ泊戸川の流れをくむ 河川であり、直接利根川との連絡 当区に接している部分は、特に 危険と認わられてす。

又との地域の地盤沈下は、最近 特にひどくなつています。緩瀬新 特にひどくなつています。緩瀬新 年中に一二〇ミリも沈下してい ます。

ます。次にこの川の水防に当つては、埼玉県越ケ谷地点における元荒川の増水状況に注意し適切な水防活動が必要であります。

と立区内におけるこの河川の特徴は、下流からくる高潮の影響が極めて大きく、したが同様のでとなった。 昭和三十三年の狩野川台風の時はあと二十五センチメートルで護はあと二十五センチメートルで護はあと二十五センチメートルで渡りでは、

発 行 足立区千住1の50

東京都足立区役所 長谷川 久 勇 82 集 総務課総務係 電記(2015)

安藤義雄 印刷 株式 巧文社(織田)

水

害

を ど 2

う

防

か

少しでも災害を防止しましよう私達は町の状況をよく知り

台

風

備

と真に心配な状況です。た今日、この地盤沈下を考

多くの水門

つている関係と、二十二年キャス リン台風で決壊した佐野町付近の 川の中の護岸が古くなつたため一 部腐つていますので、十分な警戒 を要します。

上流の埼玉県下では局部

ります。 十分注意を払う必要があ

管内排水施

度したところによりますと、年平 均六十五・八粍程度の地盤が沈下 しているため、当区の自然排水は いよいよ困難となり、最近はなん でもない時でも排水機に頼らなけ ればならない実情です。従つて戦 後は排水場の新設と増設に努力して 後は排水場に対しているため、 を はならない実情です。従つて戦 わたつて、東京都技術研究所が和三十一年度から同三十三年度 御承知の しくその度を加 州研究所が測ニ十三年度に の地盤沈 昭

て遂次整備してきましたので、現 在運転操作中の排水場は、反排水 場を含めて二十二カ所、この総排 水量は毎分二九六四立方メートル (トン)の排水能力を有しており ます。しかし残念ながらまだ浸水 地区の完全排水を到するまでに没水 地区の完全排水を到するまでに没水 地区の完全排水を到するまでに没水 地区の完全排水を到するまでに没水 地区の完全排水を到するまでに没水 地区の完全排水を到するまでに没水 をかゝる見込です。 まため行つている毛長堀改をは、なお数 年かゝる見込です。 まため行つている毛長堀改には、なお数 年かゝる見込です。 まため行つている毛長堀改によっま ため行つている主長堀改によっま ため行つている主長堀改によっま ため行っている主長堀改いを、ま だ完成には至つていません。 が完成には至つていません。 は上が管内の主要河川並びに排水 場の現況です。山岳を洪水源とす る直接の河川、即ち利根川及び荒 川の二大河川に被まれている当と が高いません。 の地勢は、水防上極めて 重 要 で

す。地勢は、

の実状です

## 災害救 助法 とは どんな法律 カン

## 災害救助を実施する

この法律による教助は、市町村 (区)を単位にその適用地を指定 して行い、災害をうけた市町村(区)に属する都道所県の知事が、 区)に属する都道所県の知事が、 区)に属する都道所県の知事が、 区)に属する都道所県の知事が、 区)に属する都道所県の知事が、 区)に属する都道所県の知事が、

四、

災害の範囲

風水害、

、長期梅雨害、火災、

融雪害、 冷 地

上で法が適用されます

**雹害、虫害** 震、噴火、

虫害

五、救助の種類
(1) 収容施設の供与、(2) 炊出しその
(2) 収容施設の供与、(2) 炊出しその
他による食品の給与、(3) 被服寝具その他生活必需品
の給与又は貸与、(4) 医療及び助産 害にかゝつた者の救出、(6) 災害にかゝつた者の救出、(6) 災害にかゝつた者の救出、(6) 災害にかゝつた食を選具又は資材

供与は 主食費、副食費、燃料費 一人一日五円二五銭以内 の避難者の炊出しその他の食品の は、主食費、副食費、燃料費

一人一日五〇円以内 食料を与へる期間は 災害発生 の日から六日以内

全焼、全壊、流失してしまつた 世帯を八世帯とし、半焼、半壊な 世帯を列世帯として算出します。 床下浸水はこの法の適用をうけま せん。

与又は貸与 ③被服寝具その他生活必需品の給

被害の実情によつて次の品目を 被害の実情によつて次の品目を 経事の実情によって次の品目を 発見、外衣、肌着、身廻品、炊事 用品、食器、日用品、光熱材料 田島、食器、日用品、光熱材料 田島、大葉発生の日より十四 日以内 以后七日以内 以后七日以内 以后七日以内。二年間無利

東部地区の場合は、二二五世帶以上 と立区だけの時は四五〇世帶以上 と立区だけの時は四五〇世帶以上 水が出た場合

以上

から足立区の水害で床上浸

小中学校児童生徒に学用品の給

す。(一般に無関係な事を除く)以上が災害救助法のあらましで

与材(7)災産品供の

A・Pとは霊岸島量水標準客位で東京都の河川の水の高さを 別る基準としています。

• 位 四三センチ低いものです 陸地測量用の東京湾の中等

一人一日四門五○銭以内①避難所の費用 建物利用の場六、救助の程度

236



## 台 風 備 2

台風警報が出たら

## がくる前に

- ておくこと。 家のまわりはきちんと片付け木箱やゴミ 木片などが流れ出さない ように整頓し
- たり倒れたりしないように応急修理をして 停電したら電気器具(とくに電熱器) 屋根や雨戸や塀など手入れして飛ばされ
- る。(電話表参照) ソケツト 電線に異状があつたら東京電力へ知らせ からはずすこと。
- にそなえて下さい。 計画を立て避難訓練などを行 容している施設にあつては、平素から避難 病院、養老院など多数の病人、老人を収

区 政 の お 知 ら せ (特集・台風に備えて)

火するような危険物は、 水時に油類が流れ出さないように注意し、 防災計画を立て万端の準備を行うは ーバイト、金属粉B、 会社、工場等にあつては平素から綿密な 安全に管理するこ 生石灰など水で発 浸

こと。(電話表参照)

又災害時には警察や消防によく連絡をとる

## また電気、 ガス等も保安措置をとること。

## 避難の 用意

- けておくこと。 年月日、血液型等記入したもの) 名札 (住所、世帯主との関係、 を肌につ 氏名、 生
- 二食分ぐらいの食物 (握り飯、 乾パン

## 排水ポンプが故障しますからドブや用水にゴミを絶対に捨てないで下さい

をもつてゆくと 用意しておいた食物や水や肌

# 病人や老幼婦

- 安全な縁故者へ一時も早く避難
- た区立小中学校の避難所へ行つて 緑故者のない方は、区で指定し

自主的に状況を判断して行つて下 この避難は、命令されなくとも

ぐに安全な場所へ避難し 危険な事態となったのですからす 第二次避難命令が出たら非常に (第一次避難) T

足立区役所梅島支所 881 3168

足 立 保 健 所 (881) 4428

又自宅を守つて いる壮年の方も

の時避難して下さい。

すからよくその指揮に従つて下さ 3.らよくその指揮に従つて下さい。 第三次避難で警察が移動収容を行

東京都水防本部 [201] 4812

(都庁河川部) 内線 3060

千住消防署 881 2400

足立清掃事務所 (881) 4916

足立福祉事務所 (881) 3603

べられるもの)と飲み水(水筒など) ン、缶詰、 んせいなど火を使わずに 最少限の着換用肌着、

必ず始末を完全にして下さい 中電灯(ローソク)救急薬品をまとめる。 貴重品などは一まとに袋へ入れておく。 火気には十分注意して、避難するときは

- 木の蓋のマンホー ルには 赤旗を
- つたときは見張り人をつける。 水はけをよくするために蓋をと
- りはずすこと。 に汚水が逆流しないようジャ口を 家の中が浸水したときは、 よう取 水道
- ガスの元栓をしめる。
- う必ず「つえ」を持つこと。 のもと。下水やみぞに落ちないよ 浸水地を歩くとき、素足はケガ

# 避難するときは

- 又は外とうなど防雨防寒衣を着用 ,帽子、頭布等をかぶり、雨合羽服装はできるだけ軽装とし、必

屋根や危険なところへ逃げおくれた人々

区立小中学校が避難所となりますが、

半鐘 ●=● 間つげける。 (消防団の水防出動)

(約5秒)(約6秒おきに約5秒の長さのサイレ約6秒おきに約5秒の長さのサイレ

半鐘 ●= ●= 危険信号 決壞などが予想される場合」

(約20秒) (約10秒 できる分間鳴らす を5分間鳴らす (約20秒) (約10秒 できるのサイン

あらゆる方法でお知らせ避難する場合はスピーカ まなど

「緊急避難者収容所 急がねば危険なとき でも不足する程の大災害や、どうし 足立区役所」 て

# 台風がさつたら

して利用し下さい

と標示してある民間の高層建物を避難所と

- らないで東京電力の支社又はサービ ーションに知らせる。 電線が切れてたれさがつていたら、 スス 近寄
- まとめて持ち出す。 「どみ」は自動車の通行できる道路に、
- め、汲み落されるととのないよう作業員にてず、また便所のあり場所がわからないた 「ふん尿」は決して個人が勝手に汲み捨
- 下水槽は使用する前によく消毒する。 生水や冠水食品を飲食しな 冠水または浸水したときは、
- 手洗いを励行し、子供に水遊びさ な

西新井消防署 881 4110 東京電力千住支社 881 3151 気象庁予防課防災係 231 6404

足立区役所 888 2151 水道局足立営業所 (881) 3292 第5建設事務所 1997 2151 電 話 局 足 立 分 局(889)9002 千住保健所(881) 4782 足 立 電 報 局(8819)9094 千 住 警 察 署 [881] 1241 西新井警察署 881 1141

関係官公庁電話番号早見表